

－教育とマナーキッズ・プログラムの接点－

1. このプログラムとの出会い

- 第一印象：「このプログラムは子どもをプラス方向に変える力を持っている」
5歳から12歳の子どもたちが数時間のうちに変わっていく姿を目の当たりにする
- 「来年は、わたしの学校でやります」 ー田中日出男氏との約束ー

2. プログラムを授業の中に取り入れる意義

- 鈴木万亀子総師範の「教え」が、計画的に、自然な流れで実践化されるプログラム
- 押し付けではなく、テニスという楽しい運動の中で、「礼儀・マナー」を自然と会得できる
- 「礼儀・マナー」には、何故そのようにするのかという意図があり、それを理解する場面も重要
- 身体を動かすことで、身体が開放され、心も開放された「快」の状態であればなおさら効果大
- 超一流の先生との出会い・ときめき

3. プログラムを授業の中に取り入れた後の反応

- ◆ 同僚教師の意識・指導が変わった。
 - ・自分(教師として・親として)のマナーについて、目の前の子どものマナー、振る舞いについて考えるようになった。
 - ・子どもの様子を見てすぐ注意したり叱ったりしなくなった。「マナーはどうか・・・?」「自分がされたらどうか?」というキーワードを投げかけ、子どもに考え、判断させるようになった。
 - ・「マナーだから守りなさい」ではなく、「何故そのようなマナー(礼儀)があるのか」を教えていくことがより大切であるということを教えていただいた。
- ◆ 子どもの意識が変わった。そして行動として表現できるようになった。
 - ・「残心」、「こころのリボン」を意識したおじぎ
 - ・道具やみんなで使うものを大切にするようになった
 - ・学校・学級内に落ち着き、けじめが感じられるようになった。

4. プログラムを他の学校や地域に普及していく上での課題

- 他校の教師とこのプログラムとの接点がない。⇒「実現への一歩」が踏み切れない。
- 児童と教員だけでなく、「保護者」も巻き込んだ場作りの工夫が必要
- 教育界には、依然として新しいものに対して閉鎖的なところがある。これを打破するためにも、教育委員会、校長、教頭になっている人への効果的なPR、アプローチが重要